

(1) 山梨リニューアル委員会
(総括)

委員長 田淵幸弘
幹事 金澤 悟

リニューアル委員会は、「リニア部会(部会長:志村浩男)」、「富士山部会(部会長:原田由起彦)」及び今年度発足した「中部横断道部会(部会長:依田光人)」の三部会により活動を展開してきた。

リニア部会では、「リニア新駅からの二次交通」をテーマに、学識経験者による講演会、討議会などを開催し、公共交通計画の先進事例について理解を深めた。京都大学の藤井教授による山梨発展のシナリオ、宇都宮市長表敬訪問による LRT 計画から開通に至る取り組み、JC リニア討議会におけるリニア開業に伴う地域創造討議、早稲田大学の森本教授による未来のまちづくりのための公共交通などを通じて、リニア新駅を起爆剤とする山梨県の発展の可能性や、リニア新駅利用拡大のための二次交通の重要性、そして実現のための強い信念が必要であることを学んだ。

富士山部会では、インバウンドの観光客数が増加している中、県立富士山世界遺産センターを視察するとともに、富士山世界文化遺産登録以降から 2020 年東京開催のオリ・パラまでを見通した志村センター副所長の講演会を開催し、課題、取り組みなどの理解を深めた。

中部横断道部会では、昨年度の静岡経済同友会との交流を契機に、今年度新たに発足し、山梨県の経済発展のためのこれまでの各自治体などにおける計画、取り組みについて理解を深めた。

三部会の詳細な報告については、後述の各部会報告を参照のこと。

<次年度のリニューアル委員会の活動>

次年度は、リニア部会、富士山部会及び中部横断道部会の三部会における個々の活動の推進とともに、相乗効果が発揮されるよう一体運営を行っていく。

リニア部会では、危機意識のもと引き続き二次交通へのインフラ投資について、富士山部会では、2020 年「オリ・パラ」も見据えた富士山世界遺産効果について、中部横断道部会では、開通間近に控えた具体的なストック効果について取り組んでいく。

一体運営の面では、中部横断自動車道は双葉 JCT～新清水 JCT まで 2019 年度開通予定と間近に迫り、その後 2027 年に開通を目指したリニアと併せて、物流、観光、企業誘致などそのストック効果を如何に引き出すか、観光については富士山とも関連させつつ、関係団体や静岡経済同友会などと連携しながら検討を進めていく。

(金澤 悟 執筆)

① リニア部会活動報告

部会長 志村浩男

<活動内容>

リニア新駅からの二次交通をテーマに公共交通計画の先進事例について学習した。

◆リニューアル委員会講演会

日 時 平成 28 年 11 月 30 日（水） 17：30～

場 所 甲府富士屋ホテル

講 師 藤井 聡 先生

京都大学大学院工学研究科教授 内閣官房参与

演 題 「地方創生と国土強靱化～山梨発展のシナリオ」

○新幹線開業につれ地方都市の中心が新駅に移動し利用客が増大する事例を中心に講演され、リニア新駅を起爆剤とする山梨県の可能性について言及された。

◆先進事例学習

日 時 平成 29 年 4 月 14 日（金）

宇都宮市長表敬訪問（志村、小澤、入倉代表幹事）

○佐藤 栄一市長から LRT 敷設の工事施工認可を受け 2019 年開通へ向けた取組みについてお話を伺う。若い人々や次世代のために実現させるという強い信念と 20 年間のたゆまぬ努力で認可を受ける。

◆JCリニア討議会

日 時 平成 29 年 4 月 28 日（水） 17：00～

場 所 県立図書館

テーマ リニア開業に伴う「地域創造討議会」
～若者×リニア 山梨の未来をかえよう～

講師派遣：入倉 要 「山梨の現状と地方創生」

～人口減少で未来山梨はどうなる～

志村 浩男「リニア中央新幹線開業に向けての課題と解決策」

～住み継ぐことでソーシャルキャピタルが増大する～

◆リニューアル委員会講演会

日 時 平成 29 年 6 月 2 日（金） 16：30～

場 所 甲府富士屋ホテル

講 師 森本 章倫 先生

早稲田大学創造理工学部社会環境工学科教授

宇都宮 L R T 敷設計画の技術的な立案者

演 題 「未来のまちづくりと公共交通」

○リニア新駅を中心とした2次交通がないと新駅は利用されない。

<今後の取組みについて>

「リニア新駅からの2次交通にインフラ投資をしなければ山梨駅は単なる通過駅となり1時間に1本の停車も保障されなくなるかも知れない。」が本年度 学んだ結論である。危機感を民間、行政で共有して悲観を希望に変えていきたい。



(28. 11. 30 藤井 聡 教授 講演会の様子)



(29. 4. 28 JCI リニア討議会の様子)



(29. 6. 2 森本章倫 教授 講演会の様子)

② 富士山部会活動報告

部会長 原田由起彦

<活動内容>

2013年6月の『富士山世界文化遺産登録』以降山梨県内を訪れる観光客数は年々増加（2016年度3205万人、2015年度比101.9%、2010年度比124.7%）している。特に富士・東部地区への観光客数は2016年度初めて1500万人を超え（1508万人、前年度比101.4%）県内観光客の約50%を占める状況で推移している。

本年度富士山部会では2013年度以降、特にインバウンドの観光客数が増加している富士・東部地区の人気の観光スポットを実際に行って現状を視察する研修を実施した。

視察場所として富士山の歴史、観光情報の発信拠点として昨年6月富士河口湖町船津にオープンした『県立富士山世界遺産センター』、『富士山、五重塔、桜』とTHE日本！のイメージが一つに集まった風景として外国人観光客の撮影スポットとして大変人気のある富士吉田市新倉山浅間公園の忠霊塔、また富士山を望む河口湖畔大石に今年7月オープンし、地場産みやげやスイーツを扱うお店を集めた商業施設『大石ハナテラス』を見学した。

今回の研修では、2013年『富士山世界文化遺産登録』以降の富士五湖周辺の様々な波及効果や今後の課題また、2020年東京開催の『オリ・パラ』までの見通しと取組みなどについて行政の立場から県立富士山世界遺産センター副所長志村勇氏の講演会も合わせて行った。

◆『富士山世界遺産センター見学』

日時 平成29年7月14日（金） 10:00～16:00

日程 (1)『県立富士山世界遺産センター』（概要説明及び見学）

(2) 講演会 演題 『世界遺産「富士山」の現状と今後の展開』

会場 富士ビューホテル

講師 志村 勇氏（県立富士山世界遺産センター副所長
元県観光資源課長）

内容 ①登山者数の推移と観光客の動向

②観光産業の現状と課題

③富士山が抱える課題

④今後の見通しと展開

(3) 新倉山浅間公園（忠霊塔周辺見学）

(4) 河口湖大石ハナテラス（見学）

<今後の取組みについて>

研修会の講演でも話があったように、2020年東京開催の『オリ・パラ』までは、

間違いなく富士山地域へのインバウンドをはじめとする観光客増加が予想される中、来年度富士山部会では富士山世界遺産効果を全県に波及させていくための提言を取りまとめが出来るよう、産官学連携の意見交換会、講演会などの実施を計画していきたい。



(29. 7. 14 富士山世界遺産センターほか視察研修)

③ 中部横断道部会活動報告

部会長 依田光人

<活動内容>

中部横断自動車道の開通が見込まれることから、昨年 7 月に静岡経済同友会との交流会の機会を持ち、これを機に本年度から「中部横断道部会」として当部会は、山梨リニューアル委員会へ新たに所属することとなった。

山梨・静岡両県にまたがる高速交通インフラの整備により、人的交流や物的交流、経済交流など、両県における経済活動におけるスピードアップや影響が見込まれる。これを好機ととらえ、中部横断自動車道の南部区間完成を、山梨県の経済発展にどう活用していくかを主眼に置いた活動を行うこととするとともに、これまでの自治体などの取り組みの理解を深めた。

<今後の取組みについて>

増穂-六郷間が 3 月に部分開通したものの、全線開通は 2 年先に伸びて 2019 年度ということになっている。先延ばしになったものの、静岡側は物流・交流の期待を寄せている現状であり、山梨側も地元の期待は大きいと感じる。開通後の地域経済を見据えた効果的な企業対策を考えると、一つには企業の BCP 推進、企業が来なくなるようなインフラや水道、エネルギー対策など企業立地に対する積極的な地元の施策のより一層の推進も必要である。

全線開通が 2 年先送りになり、本年はリニューアル委員会 3 部会合同部会としてテーマなど方向性を探りながらの活動にとどまってしまう、部会単独での会合が思うように出来なかったものの、今後は、リニア部会や富士山部会との関係を保ちつつ、静岡経済同友会との連携や交流も見据えながら事業活動を進めていく。

